

■寺島蔵人 藩政家。加賀藩政革新を求め、3度免職、その都度復帰したが、最後は、流罪となり、大塩平八郎の乱の年、憤死。
てらしまくらんど
・・・・・・1777＝ 加賀国金沢で、人持組藩士原元成の三男に生まれる。

田沼意次失脚1786＝ 9歳：

松平定信引退1793＝16歳：

写楽・・・・1795＝18歳：

伊能測量始・1800＝23歳： 藩校{明倫堂}の読師となるが、
宣長没・・・・1801＝24歳： 越中国の豪族をルーツとする藩士寺島家の養子となり跡を継いでいた兄が死去したため、入れ替わって寺島家を継ぎ、読師を継続したまま、御馬廻組頭御用番支配を皮切りに、藩の実務畑の役職を歴任、
アメリカ船来航始1803＝26歳： 高岡町奉行に進み、蔵人と改名。
いざゞ来航・1804＝27歳：
いざゞ報復・1806＝29歳： 海保青陵に出会い、経済学を学び、財政に行き詰まっていた藩主前田斉広に農業振興を進言、受け入れられて、改作奉行となり、

浮世床・・・・1813＝36歳：*大坂借財仕法御用主付を命じられ、現地に滞在して、藩借金返済の延期と新借金を工作、
・・・・・・1815＝38歳： 成功して帰藩するも、米切手を渡したのは独断と免職となる。以後、藩政に深い不信を抱くようになり、

水野忠成老中1818＝41歳：*その有能さを知る藩主の意向で、頭並に任じられ、改作方・勝手方御用を経て、横目に抜擢されるも、
群書類従完結1819＝42歳： 十村事件への藩の措置に反対したため、免職となった上、自宅謹慎となる。
・・・・・・1820＝43歳： この年、藩は、新しく任命された十村が無能で農政が混乱したため、十村全員を赦免し、
蝦夷地直轄終1821＝44歳： この年、復職させるも、獄中で6人も死去。
膝栗毛終・・・・1822＝45歳：

ｼｰﾎﾞﾙﾄ鳴滝塾1824＝47歳： 謹慎を解かれて、御馬廻組頭に任じられ、風俗心得方、宗門奉行を兼任後、前藩主前田斉広が隠居後に始めた教諭局に選ばれて出仕し、藩政の中心にかかわるようになるも、斉広が急死するや、教諭局が廃止されたため、長文の「口達書」を提出し、斉広の遺志を守るように訴えるが、その内容の厳しさに、
異国船打払令1825＝48歳： 解任されて、逼塞を命じられる。
以後も、たびたび「口達書」を提出するも、握りつぶされ、

富籤流行・・・・1830＝53歳： 逼塞を解かれるも、役職にはつけず、
富嶽三十六景1831＝54歳：
鼠小僧磔・・・・1832＝55歳： *藩政の硬直の全ての原因が年寄政治にあると、仮名で「ふぐ汁の咄」を著し、かつての十村事件処理はじめ、御用金を取り立てては庶民を苦しめてきた藩政を、ふぐに譬えて痛烈に批判、同調するものが増加、とくに標的となった最年長の奥村栄実から“前門の虎”と恐れられるようになり、

・・・・・・1836＝59歳： 罪もなく能登島へ流刑となり、異例の扱いをされ、扶持米も与えられるが、
大塩平八郎乱1837＝60歳： *なお、政治批判を続けた日記「島もの語り」を遺して、没した。